

都市再生整備計画(第3回変更)

すかがわなんぶ
須賀川南部地区

すかがわ
福島県 須賀川市

平成23年9月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	福島県	市町村名	すかがわし 須賀川市	地区名	すかがわなんぶ 須賀川南部地区	面積	14.8 ha
計画期間	平成 20 年度 ~ 平成 24 年度	交付期間	平成 20 年度 ~ 平成 24 年度				

目標

大目標:『あんみつつ 心でつなぐ 風流のまち』

- 目標① 芭蕉が感じた風流の再生
- 目標② 良好な住環境の形成による、安心・安全・安住「あんみつつ」のまちづくり
- 目標③ 住民意識の醸成とまちづくり活動支援

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

・須賀川市は福島県南部に位置しており、北は郡山市、西は天栄村、南は鏡石町、玉川村、東は平田村の1市1町3村に隣接する。平成17年4月1日に隣接する旧岩瀬村及び旧長沼町と1市1町1村による市町村合併が行われた。合併後の新市の名称も「須賀川市」となり、郡山市に次ぐ県中の副次都市としてさらに位置づけが高まってきている。

・本市から県都福島市まで約55km、仙台市まで約140kmの距離にある。鎌倉時代以降は城下町として、天正年間以降は奥州街道屈指の宿場町として発達してきた。合併後の市土面積は279.55km²で平成20年3月1日現在、人口80,626人、26,455世帯を数える。また、市内の交通網については、東北縦貫自動車道、国道4号、東北新幹線、JR東北本線、水郡線が通り、さらに空の玄関口である福島空港を有するなど広域的な交通の利便性は非常に高い。

・市街地には江戸時代以前に形成された都市形態が今なお残されている。南部地区にはかつての宿場町の面影を残す商家をはじめ、歴史性のある建築物が残されているほか、松尾芭蕉が滞在しこの地に”風流”を感じ「風流の初めや奥の田植え歌」という句を残すなどの歴史がある。そのほか、城下町時代の商人文化の繁栄を背景として菓子や染め物屋などの家内制の製造業者が多くあり、昔ながらの味覚や技、建物が継承され、往時の職人文化の面影がうかがえる。また、須賀川市内南部地区には多くの井戸が残されており、今もなお生活に密着して様々な用途に利用されている。

・当市は中核都市である郡山市の通勤圏で、かつ地価が比較的安価であることから多くの住宅団地が建設されたが、人口はほぼ横ばいであり、供給過剰である。一方、南部地区では人口の減少が著しく、少子高齢化の進展が深刻で、商業者の後継者不足などをはじめ地域活力の低下が懸念されている。

・須賀川市の主な観光施設には、須賀川牡丹園をはじめ乙字ヶ滝、翠ヶ丘公園、大桑原つつじ園などがある。観光イベントには、日本三大火祭りのひとつである「松明あかし」や「桜まつり」などの祭りや「釈迦堂川全国花火大会」などのイベントがある。特に、釈迦堂川全国花火大会は県内でも有数の観光客数の多い行祭事であり、今年も31万人もの観光客が訪れている。また、南部地区では、奇祭「きうり天王祭」と呼ばれる市の特産きゅうりを奉納して収穫を祝い、無病息災を祈願するという市民のための祭りがあり、江戸の昔より親しまれている。

・郊外店舗の進出等により中心市街地の小売店舗数、小売年間販売額が減少し、空洞化が進展している。一方、東部環状線沿いへの大規模店舗の集積が進み、都市構造は大きな変化を来している。

・須賀川市では、平成19年に須賀川市総合計画「新生すかがわ2007」を策定し、今後10年間のまちづくりの指針を定めた。また、今年度より須賀川市都市計画マスタープランの見直しの検討を行っている。

・平成17年度より、市民まちづくり団体、市、専門家による「須賀川南部地区まちづくり懇談会事務局」を立ち上げ、地域住民から広く意見を集約をおこなっている。これまでに6回の住民ワークショップや町内会懇談会を行い、南部地区のまちづくりプランの検討を行っている。加えて、平成18年2月にはNPO法人「チャ・チャ・チャ21」が設立され、地区に密着した住民の望むまちづくりを進める一環として平成18年度には全国都市再生モデル調査にて「井戸を活用したまちづくり調査」を実施しているほか、今年度は「まちづくり協定」の制定に向けて、地域住民とともにまちづくり憲章を検討するなどの取り組みを行っている。

・須賀川市では、市の庁内調整を図るために平成17年11月より代表する主要な各課による庁内調整会議を行っている。これらを踏まえ、平成18年3月には『須賀川市都市再生整備計画予備計画』を実施し、平成19年度は各個別事業メニューの精査を行うとともに、ソフト事業の充実を図るために商工会、町内会、NPO等のヒアリングも随時行っている。

・中心市街地の空き店舗を改修し、平成19年4月に「総合福祉センター」をオープン。市民福祉の向上と、まちなかの活性化につなげていきたいと考えている。

・南部地区を南北に縦断する都市計画道路「須賀川駅並木町線」の整備が県事業として行われており、整備効果が周辺活性化に寄与するために社会実験等を行う「元気づくり調査業務」を実施するなど、県と市、地域の一体的なまちづくりの取り組みが行われている。

課題

・高齢化が進む中で、市域に住む住民が安心して住み続けていくために必要な良好な住環境を整備し、地区生活の安全性・快適性を確保する必要がある。

・かつての奥州街道の宿場町の面影を残す歴史性のある建物や、地域に残るイベントや祭り、豊富な水資源に支えられた職人文化等、須賀川らしさのある資源を積極的に活用するとともに、地域資源のネットワーク化と広域的な交流機能強化、地域文化の継承と発信等が必要である。

・都市計画道路須賀川駅並木町線の整備に伴い新たに形成される沿道商業施設の創出をきっかけに、都市計画道路以外の既存の商店街との連携を強化することで地区全体の賑わいを再生するようなまちづくりが必要であるほか、地区に人の流れを生み出し、交流が図られるような仕掛け作り等が必要である。

将来ビジョン(中長期)

須賀川市総合計画「新生すかがわ2007」において、経済の低成長時代への転換、産業構造の再構築など、新たな時代の流れに対応したまちづくりの指針を定めている。

総合計画では、まちづくりの目標を「市民のしあわせの実現」とし、「人間中心」「生活優先」「環境共生」「地域尊重」の4つの基本理念のもと、めざす将来像を「人・自然・地域が輝く臨空都市すかがわ」としている。なお、新市づくりの3つの柱として「ネットワークの構築」「コミュニティの活性化」「新市(人・行財政)基盤の充実」を掲げ、めざす将来像の実現化を図ることとしている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
風流満足度	%	住民が“風流がある”と感じる割合(アンケート結果)	都市基盤整備の振興による風流満足度の向上	34.3	H19	50.0	H24
安全・安心満足度	%	安全安心に係る施策の地区住民満足度の向上(アンケート結果)	都市基盤整備の振興による安全・安心に係る地区住民アンケートにおける満足度の向上	41.2	H19	60.0	H24
地区往来者数	人/年	芭蕉記念館の来訪者数の増加	南部地区の魅力向上によるまちなか地区の往来人口の増加	5,823	H18	6,500	H24

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1 <芭蕉が感じた風流の再生></p> <ul style="list-style-type: none"> 芭蕉ゆかりのあるまちとして、また、奥州街道の宿場町としての面影を残す歴史ある建物や須賀川の職人文化、伝統工芸などをはじめ、磨けば光る埋もれた身近な資源の情報を発信していく。 都市計画道路須賀川駅並木町線の整備とあわせて、地区一帯をかつての宿場町であった頃のような“風流”を感じる空間としての空間整備を行う。 回遊性を高めるために、回遊ルートの道路舗装改良を行うとともに、案内板、広場、駐車場、公衆便所を適宜配置する。 芭蕉まつりや打ち水大作戦などの“風流”をテーマとした祭事を継続的に行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①市道1414号線(基幹事業/道路) ②市道1420号線(馬町細街路)(基幹事業/道路) ③市道1501号線(基幹事業/道路) ④市道1502号線(基幹事業/道路) ⑤市道1503号線(基幹事業/道路) ⑥市道1504号線(基幹事業/道路) ⑦地域案内板(基幹事業/地域生活基盤) ⑧馬町広場(基幹事業/地域生活基盤) ⑨街角公衆便所(提案事業/地域創造支援事業) ⑩まちづくり推進事業(提案事業/まちづくり活動推進事業)
<p>整備方針2 <良好な住環境の形成による、安全・安心・安住「あんみっつ」のまちづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民の日常的な憩いの場としての広場の整備を行うとともに、災害時において地域住民及び来街者の避難が安全に行うことのできる身近な自主防災拠点として、防災対応型の広場を整備する。 都市計画道路須賀川駅並木町線沿道の背後にある密集市街地の狹隘道路解消として、馬町細街路を整備する。 狹隘道路周辺の初期消火能力を向上させるため、消火施設の整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①市道1414号線(基幹事業/道路) ②市道1420号線(馬町細街路)(基幹事業/道路) ③市道1501号線(基幹事業/道路) ④市道1502号線(基幹事業/道路) ⑤市道1503号線(基幹事業/道路) ⑥市道1504号線(基幹事業/道路) ⑦馬町広場(基幹事業/地域生活基盤) ⑧大町防災広場(基幹事業/地域生活基盤) ⑨消火施設整備(提案事業/地域創造支援事業)
<p>整備方針3 <住民意識の醸成とまちづくり活動支援></p> <ul style="list-style-type: none"> 住民レベルにおける“風流”につながる景観づくりの支援を行う。 広場を活用して、地域住民が各種イベント等行えるよう電源、上水道施設の整備を行う。 住民参加による事業モニタリングを行うとともに活性化に向けたさらなる方策について検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①馬町広場(基幹事業/地域生活基盤) ②事業効果分析(提案事業/事業活用調査) ③都市再生整備検討協議会(提案事業/まちづくり活動推進事業) ④まちづくり推進事業(提案事業/まちづくり活動推進事業)
<p>その他</p> <p>○事業終了後の継続的なまちづくり活動 事業終了後も引き続き、将来ビジョンの達成に向け中・長期の目標達成を目指し、継続したまちづくり交付金事業の活用も含め検討を行うものとする。なお、その検討にあたっては引き続き、都市再生整備検討協議会を存続させ、官民協働のまちづくりを目指すものとする。</p> <p>○交付期間中の計画の管理について 交付期間中において各種の事業を円滑に進め、目標に向けて確実な効果をあげるために、まちづくり推進協議会を今後も継続的に開催し、毎年、事業成果について評価や事業の進め方の改善等を行うためのモニタリングを実施する。また、都市再生整備計画書や計画概要等を市のホームページで公開し、市民からメール等で意見の徴集を行うこととする。</p>	

都市再生整備計画の区域

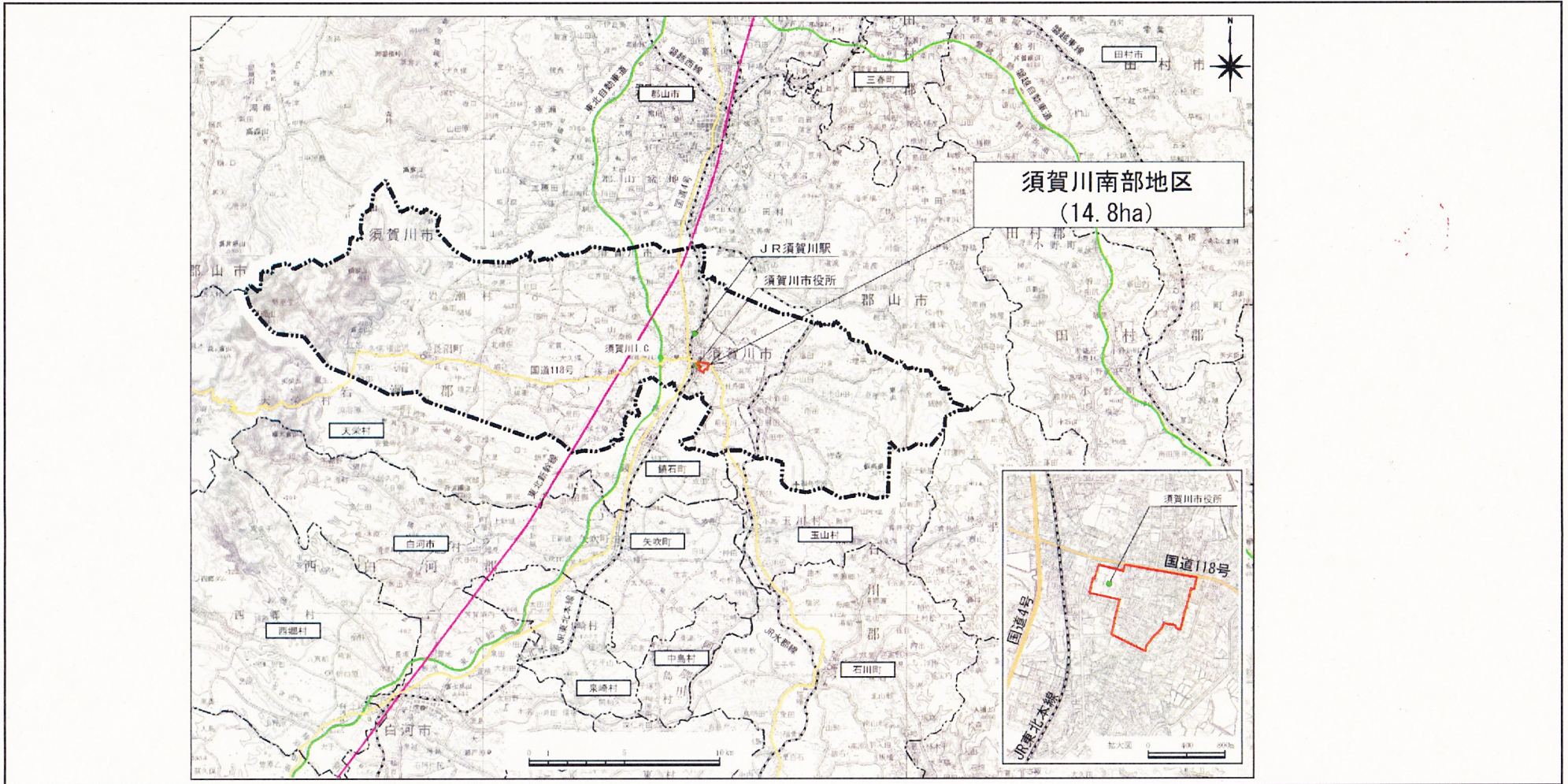
須賀川南部地区(福島県須賀川市)

面積

14.8 ha

区域

須賀川市大町の一部、本町の一部、馬町の一部、八幡町の一部



須賀川南部地区(福島県須賀川市) 整備方針概要図

目標 『あんみつつ 心でつなぐ 風流のまち』	代表的な指標	風流満足度 (%)	34.3	(19年度)	→	50	(24年度)
		安全・安心満足度 (%)	41.2	(19年度)	→	60	(24年度)
		地区往来者数 (人)	5,823	(19年度)	→	6,500	(24年度)

